

# 二学年 学年だより

No. 6 【11月号】

令和2年11月2日発行

学校とは、どんな場所だろうか？

私の高校時代は、成績順位は真ん中が良いところ、得意のスポーツでも一番ではなかったし、友人関係でも上手くいかないことが多々あった。それでも高校が楽しかったのは、自分がどんな人間かを知ることができたからだ。

千田琢哉氏の『学校は負けに行く場所。』という本には、教員になってから出会った。「学生時代にしっかり負けておけば、自分が関わるべきでない分野が分かってくる。世の成功者たちは、自分が関わるべきでない分野では勝負せず、自分の努力が報われやすい分野で勝負している。」とある。

自分が成功者だとは思っていないが、自分の人生は報われている方だとは思っている。何でも出来るスーパーマンはどこへ行っても存在するし、自分の得意分野であっても上には上が存在する。かといって、「じゃあ努力しても意味がない」となってしまうと、決して周囲の人から認められることはない。多くの人は、「自分が得意とするなら、この分野だろう」という自信と不安の両方を抱えながら生きていると思う。高校時代の私にとっては、理系科目とスポーツと社交性がそれに該当した。

また、自分以外の人が居場所を作ってくれるということも高校で学んだ。「お前はアレが得意だよな」という雰囲気を作ってくれたり直接言葉をかけてくれたり、私はとても嬉しかった記憶がある。私に居場所を作ってくれた高校時代の友人に大変感謝しているし、卒業後20年近く経った今でも数名の友人たちとは連絡を取っている。「誰かの居場所を作ってあげられる存在になって、楽しい高校生活を送ってくれたら嬉しい。」私が高校教員を志した理由の一つでもある。

何の分野でも構わない。「自分はココで頑張るんだ」というものの発見力と継続力があれば、楽しい日々が待っていると信じてほしい。既に発見して継続している人たちは、誰かの居場所を作ってあげられる存在であることを自覚してほしい。君は、既に学校や社会に貢献している素晴らしい人材である。

学校とは、「自分はどんな人間なのか？」「自分には何ができるのか？」を考えさせてくれる素晴らしい場所だと思っている。  
(205HR担任)

「能力がある人」とはどのような人でしょうか。「能力」にもいろいろありますが、私は「修正能力」を挙げたいと思います。修正能力があると、人はどんどん成長することができます。なぜなら、自分の足りないところを修正して、自分の理想とする自分に近づいてゆくことができるからです。

では、どのような人が「修正能力がある人」なのでしょう。人から指摘を受けた際、「すみません。次から気を付けます。」と言って、実行に移すことができる人を見ると、心の中で「おっ！この人はできるな！」と私はひそかに思います。自分の非を認めて、「すみません。」と言って修正できる人は、実は能力の高い人なのです。

指摘を受けても、受け止められないうちは、残念ながら「できる人」とは言えません。ちなみに205の生徒は修正能力が高く、将来が楽しみです。  
(205HR副担任)